

令和 7 年 8 月 2 9 日

令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

長野県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
信州大学教育学部附属長野中学校	国立大学法人信州大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
信州大学教育学部 附属長野中学校	https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/naga-chu/news/research/post-95.html

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果及び学校関係者評価結果の公表 URL
信州大学教育学部 附属長野中学校	https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/naga-chu/research/cat20011/post-48.html

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

- ・ 校務分掌（教科指導）に「あさひの Learning（学際的な学習の時間）」を設置した。
- ・ あさひの Learning では、本校職員による探究についての学習に加え、地元企業や信州大学、東京大学、長野白樺ライオンズクラブによる講演会や地元企業との協働学習を位置付け、生徒の探究心を育む教科横断的な学びを実践した。

教育課程表

教科	1 学年	2 学年	3 学年
国 語	132 (-8)	132 (-8)	100 (-5)
社 会	100 (-5)	100 (-5)	132 (-8)
数 学	132 (-8)	100 (-5)	132 (-8)
理 科	100 (-5)	132 (-8)	132 (-8)
音 楽	44 (-1)	34 (-1)	34 (-1)
美 術	44 (-1)	34 (-1)	34 (-1)
保健体育	100 (-5)	100 (-5)	100 (-5)
技術・家庭	66 (-4)	66 (-4)	34 (-1)
外 国 語	132 (-8)	132 (-8)	132 (-8)
特別な教科 道徳	35 (0)	35 (0)	35 (0)
あさひのプロジェクト (総合的な学習の時間)	50 (0)	60 (-10)	60 (-10)
特別活動	35 (0)	35 (0)	35 (0)
あさひの Learning (学際的な学習の時間)	45	55	55

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
 - ・実施していない

<特記事項>

ホームページや参観日等により活動の様子を報告している。合わせて、月2回の学年だよりを全戸配付し、活動について情報を提供している。また、学年だよりは学校ホームページにも掲載している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

教科学習と「あさひのプロジェクト（総合的な学習の時間）」の学習をつなぐ「あさひの Learning」では、教科学習を土台としながら、これらを、社会とのつながりを意識して、連続的・発展的に学びを深めていく自立した学習者の育成を図っている。探究的な学習に必要な「探究の方法論」を身に付けたり活用したりする学習を実施することで、生徒の「やってみたい！」から始まる「社会貢献」をテーマにしたチーム別の活動において、生徒自らが社会課題（ニーズ）と自分の強み（シーズ）を生かした活動が展開されている。一方で、教職員としてどのように伴走（ファシリテート）すればよいか、教職員の立ち位置や指導の在り方を考えていく必要がある。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

教科学習と「あさひのプロジェクト」の学習をつなぐ「あさひの Learning」の実施により、学校教育法等に示す学校教育の目標を達成できるよう学習を行うことができています。本校が実施した「あさひの Learning」の授業に関するアンケートでは、「授業に意欲的に取り組んでいる」「授業に満足している」のどちらの項目も、生徒・保護者・教職員のすべてで７割以上が肯定的回答であった。

５．課題の改善のための取組の方向性

「あさひの Learning」は、教科学習と「あさひのプロジェクト」の学習をつなぐ学習として位置付けている。令和６年度の状況から、「あさひの Learning」と「あさひのプロジェクト」について、学習者（生徒）の立場や第三者（保護者など）の立場から見てもその違いが分かるように、目標や内容をより明確にしていく。また、教科学習とのつながりも生かした教科運営ができるようにしていく。